

黎明会だより

行動心理学と福祉社会

白梅学園大学子ども学部

教授 金子尚弘

福の世界に突然現れたタイガーマスクの新聞報道は、多くの読者に現代の福祉の諸問題を喚起させたように思う。行動心理学を専門とする私は福祉のさまざまな分野に疎く福祉を取り巻く、経済や雇用、社会保障、医療、教育の複雑な絡み合いを解くことができないではあるが、今回の学用品プレゼント報道を通じて、私を含め多くの人が、現代の児童福祉や生活保護等の具体的な問題に、もう一度目を向けるきっかけとなつたのではないか。また「児童虐待」や「貧困」、「消えた高齢者」など、家族や地域の問題も含めて、日本の福祉の現状を、改めて考え

ここ十数年、心理学の分野でも「福祉心理学」あるいは「行動福祉」という言葉が聞かれるようになってきた。特に行動福祉という考え方は、今世紀、行動心理学の発展に最も寄与したスキナー(B.F.Skinner)の行動分析学を学ぶ人々が、福祉の世界への積極的な関与を目指して提言した考え方である。科学的心理学を追究しそぎた結果、日常生活の諸問題の解決に役立たないとされた心理学の核となる理論を、福祉現場のさまざまな問題解決に役立てようとする試みである。現在は、認知行動療法や社会生活技能訓練、発達や機能障害の支援等、精神保健、療育、介護、リハビリテーション



黎明会だより

No.113

編集・発行人
黎明会
〒187- 東京都小平市
0032 小川町1-485
☎ 042-346-6611
<http://www.reimeikai.or.jp/index.html>

ヨンといったさまざまな対人援助の分野に関わる者が増えてきたが、行動福祉は、人が行動を獲得する仕組みを解明する行動科学を基礎として、行動の修正までを応用分野としてきた経緯がある。海外では、福祉人材の養成や福祉行政の立案にも関わることがあり、今後の発展に期待している。

尤も、自立支援と家族支援、地域の連携が声だかに謳われても、人の行動を変えたり、さまざまなお意見を含めた「行動」を予測することは容易なことではない。スキナーは、罰を与えない社会によって成り立つ、落ちこぼれもない、児童虐待もない、貧困もないユートピアを描いた「ウォールデンツー」を著したが、一億の日本人、六九億人の世界を相手にしては、このユートピアも現実的ではない。実際私たちは驚くほどの落差のある社会に暮らしている。高齢者をカモにした詐欺行為に、想像もできないほどの時間を費やしている若者が居る一方、日本の福祉を変えてきた先達に続いて、まだまだ終わらない福祉現場の改革に生涯をかけて闘い続けている人たちの話に、圧倒されることもある。また、ごく普通の主婦であつて地域活動に尽力しておられる方もいる。友人の母君は、ボイイスカウトやPTA活動、民衆委員、消防や高齢者、障害者支

援などの地域活動を黙々とこなし、多くを語ることもなくいつも穏やかな印象しかなかったので、八十歳の天寿を全うするまで、家族以外はその活躍を知ることもなかつた。これ程までに長く熱い貢献ではなくとも高齢者の仲間入りをしてからボランティアとして活躍する人が多いことにも勇気づけられる。しかし一般の人達と話していると、タイガーマスクに限らず、福祉財政の意見を闘わせる人々から始まり、黙々と福祉社会を支えている多様な人達が沢山居ることは知られていないようである。ユートピアではなくとも、理想的な福祉社会は、相互理解と相互の支え合いが至極当たり前の社会を基礎に、さまざまな専門職の人達によって運営されるのではない。こう考えると、教育の役割、あるいは行動福祉の教育における役割は、この社会を支える人々の理解の落差を解消して、「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」という当たり前のことを行ふに尊重する人を育てるということになる。

結局また非現実的な「ウォールデンツー」の世界に舞い戻つてしまつたのかもしれないが、スキナー氏の言葉、キープニブリング(keep nibbling少しづつかじり続けよう)という言葉を実践することが大切だと思っている。

＼研修発表会を終えて＼

研修推進担当参事 戸石正子

認知症高齢者への口腔ケア

ひときわ厳しい寒中のおり1月27日（木）午後、法人全施設参加の研究発表大会が開催されました。利用者様のご家族やボランティアの方々を含め106名の参加があり、当日の会場は誰もが1位入賞への期待と熱氣があふれていました。

今回の大会は、医療・介護・福祉の教育実践に携わっておられる3名の外部講師をお招きして専門的な講評をと考慮いたしました。実際の講評では、各先生方より温かいお言葉あるいは、今後に向かってどう歩めばよいのかのご示唆とご意見をいただきました。発表では、研究プロセスに真摯に取り組んだチーム、日常の業務改善そのものを発表したチーム、研究がなぜ必要かまで行きつかず事業説明に留まつたチームといろいろありました。

その結果、第1位はやすらぎの園「認知症高齢者への口腔ケア」チーム、第2位はあかつき「個別の健康管理への取り組みを通して介護職「寝たきりによるコミュニケーション不足の改善」チームで

実際の講評では、各先生方より温かいお言葉あるいは、今後に向かってどう歩めばよいのかのご示唆とご意見をいただきました。発表では、研究プロセスに真摯に取り組んだチーム、日常の業務改善そのものを発表したチーム、研究がなぜ必要かまで行きつかず事業説明に留まつたチームいろいろありました。

その結果、第1位はやすらぎの園「認知症高齢者への口腔ケア」チーム、第2位はあかつき「個別

黎明会ではこれからも社会福祉法人として地域の方々に喜ばれるようサービスの向上を目標に定め、チームで地域福祉について共に考え、共に歩んでゆきたいと考えております。職場の気づきが課題解決の緒となり、そして成果を共有し、さらには地域の方々に発信できればと願っております。

そのためには、しっかりととした研究プロセスとグループでひとつ課題を設定し、ケアの実践の表記方法の研鑽に努め、研究のための研究に終わることなく現場の利用者様へのフィードバックにつなげていかなくてはなりません。

次回は少しステップアップした形で、研究発表の場が聴衆とのコミュニケーションの場となれますように、プレゼンテーションの能力を高め、研究姿勢とその熱意を認めていただけるようたゆまぬ努力をしてまいります。

今回の事例研究は、初参加ということもあり、フロア別のチームに分かれそれぞれテーマを決め、事例研究を行いました。我々のチームでは、去年の6月よりテーマを検討し、関係者にて議論を重ね日頃より重要視されていた「口腔ケア」について取り上げることを決定しました。7月に全体計画決め及び歯科（天野）ドクターによる数回の口腔ケア指導、8月より2ヶ月間口腔ケア実施、10月に集計及びまとめ、11月にリハーサル及びチェック、12月に予選発表という予定でしたが、年末の仮設引っ越しと非常に忙しい中、11月以降は計画通りに進まず不安だらけでした。7月の歯科（天野）ドクターからの指導ではスタッフのレベルの低さに厳しいお叱りをいたしましたが、口腔ケア実施期間中、高評価をいただき、現場一同の原動力になりました。1月の予選で我がチームが選抜されました、短期間にて発表用資料を作成したため、作業負荷の偏りが



研究発表会の様子

大きかったように感じます。またリハーサルをする時間も少なかつたため、今回の発表では、パワーポイントの音声再生機能を導入しました。この事例研究を通して、スタッフ一人ひとりが口腔ケアの必要性や具体的な手法を学び、確実にスキルアップできたと認識しております。記念すべき第1回の事例研究大会で1位になったことを大変誇りに思っています。個人としては、小さな進歩ですが、やすらぎにとつては大きな一步になつたと確信しています。ご協力いただいた多くのスタッフにお礼を申し上げると共に、新人スタッフへの指導、さらなるスキルアップも進めていきたいと思います。次回の事例研究大会でも2連覇できるよう頑張ります。



出発点としての病院機能評価

診療施設 南台病院
看護部長 逢坂範子

1月22日待望の認定証が届きました。これは当院が第三者評価機構の関である日本医療機能評価機構の審査において、合格水準に達しているということが証明されたといふことです。審査は昨年10月下旬、4人のサービスイヤーを迎えて、3日間にわたり実施されました。

審査項目は病院の基本機能と療養病床に特有な機能合わせて379項目に及び、会議室には、三方壁面を覆いつくすほどのマニュアル類や各委員会の活動記録、会議録等

経験者を中心に、院内全ての職員が、業務の再点検、書類の準備、設備の補修や廊下の壁のペンキ塗り、敷地内の草取り等、各自自発的に協力してくれたと感謝しています。「やるべき時にはやる!」これも当院の強みといえそうです。

病院機能評価は到達点ではなく、継続的なサービス改善・向上のための出発点に他なりません。法人内施設の職員、利用者の方々や地域の皆様から「さすが、認定病院」と言つていただけるような病院づくりを目指し、一層努力してまいります。

『成年後見制度の実際』

黎明寮 オンブズマン

社会福祉士 德永智子

が並べられ、活動実態そのものがここに集約されているかのようでした。面接では、各部門それぞれの組織活動のための体制づくりやサービス提供における質の維持・向上のための取り組みなど、サー

私は権利擁護センターぱあと
なあの会員として、成年後見の
仕事を行なっています。

『成年後見制度の実際』

黎明寮 オンブズマン
社会福祉士 徳永智子

私は権利擁護センターはあとなあの会員として、成年後見の仕事を行なっています。

福祉の分野では、措置制度から契約制度になり、契約の締結が困難な人の代理行為を行なうのが成年後見制度の役割だと言われています。実際福祉サービスの契約書に署名することが主な目的の様に思われています。

「認知症の高齢者が介護施設に入居するため、成年後見人を探している」という話をよく聞きます。確かに、その施設の契約内容をしっかりと確認し、署名するのが後見人の仕事ではあります。しかし、その前に注意すること、それは誰の為の契約かということがあります。契約が目的の後見制度ではないはずです。あくまでも後見人は本人の代理人であり、本人の意思を第一に尊重することになります。しかし本人に判断能力がないから後見人がいるのではないかという矛盾に突き当たります。そうすると誰かがソーシャルワーカーになると望ましいことになります。本人に望んでいることが一致するのか確認しなければなりません。後見人は本人の目となり耳となり、ど

れくらい本人側に立てるかが鍵となります。結果的に望ましいことと望むことが一致しないことがわかれれば、もちろん後者を取ることになります。そしてそのために不利益が生じないよう最善を尽くさなければなりません。

先ほど述べたように便宜上使われがちな後見制度ですが、基本的には本人の希望を叶えるための制度です。夢が全て叶うほど社会資源が豊富とは言えないのが現実ですが、そこのスタンスはぶれていけないところです。さきほどの契約は福祉サービスの契約が前提のような話でしたが、実際の社会は目に見えない契約をたくさん取りかわして成立っています。物を買うにも乗り物に乗るにも私たちは無意識に契約を交わしながら、安心した日常生活を維持しています。契約はお互いの同意を必要とします。後見人は本人が同意するであろう生活手段を選択し提供しなければなりません。そのときには本人の周囲の人との協力が必要です。本人の性格を理解している人、本人が望む生活情報を持つている人などの協力がなければ何もできません。そこは福祉関係者にお願いするところです。またおせっかいをやきすぎて、権利を守る立場から権利を奪う存在にならないようお互いに気をつけて、制度活用したいのです。

中学生の福祉体験 学習を終えて

気に長生きしてください。たいへんお世話になりました。

昨年の11月に小平市立第二中学校1学年193名の生徒が黎明会の4つの施設にて福祉体験学習を行いました。各施設で体験した生徒さんの感想文をご紹介したいと思います。

■体験施設 救護施設 あかつき

1年B組 浜里 達也

最初はすごく不安な気持ちがあり、つまらなかつたらどうしよう

といろいろ考えてました。でも、

皆様は温かく迎えてくださり気が

楽にできました。その他にも出し

物や歌などをしつかり聞いてくだ

さり大成功だと思いつくうれし

かったです。他にあかつきの方と

いっしょに歌を歌いました。でも、

歌は少し知らない歌があつたけれ

ど、皆様が始めに歌つてくれたの

でわからなくとも歌うことができ

ました。僕たちより声が大きくて、

普通の人と同じでいっぱい声が出

てるんだと思い、おどろかされました。僕は福祉体験を通して命の大

切さをあらためて実感しました。これからもあかつきの皆様方お元

■体験施設 救護施設 黎明寮

1年D組 佐藤 優佳

私は黎明寮の持田さんのお話の

中の「ここで働いている人達は、みんな遊ぶのが好きな人達なんだ

よ。」という言葉を聞いてとても

感動しました。お仕事は大変だと

思うのに、そこで生活している人

達の事を一番に考へているんだな

と感動しました。施設の行事の際

には、黎明寮で働く方々も参加し、

衣装を着たりして、みなさんで樂

しんで行つているという事が話を

聞き、また施設の中を見学させて

いただき分かりました。

私は、黎明寮を訪問して、大変

だなと思うこともたくさんあつた

けれど、すごいなと思う事もたく

さんあつたので、福祉についても

っと調べてみたいです。黎明寮に

行き、福祉のすばらしさ、大切さ

を知ることができました。本当にあ

りがとうございました。

■体験施設 障害者支援施設 澄水園

1年C組 長南 千鶴

先日の福祉訪問の折には大変お

私は、知的障がいの方々の大変さを知るためにいろいろな「体験」をしたことがとても印象に残りました。その中で特に軍手をして鶴を折ったことが印象に残っています。軍手を二重にはめるのは思つたより厚く、折り始めても角がバラだつたりと全く折れませんでした。

私はこの体験で知的障がい者の方々の手の不自由さが分かりました。そして、私達は普通に手を動かしていますが、利用者の方々は体験で知つたように、うまく動かせないと苦しさが心にしみました。それでも、いろんなことに挑戦する意欲などに勇気をもらうことができました。

そんな気持ちになる「体験」を企画してくださりありがとうございました。とても貴重な体験をすることができました。本当にありがとうございました。

私は、今回の福祉体験で、「けやきの郷」を訪問させて頂きました。それは、できるだけ利用者の方とコミュニケーションをとりたいなと思っていました。

当日、様々な事を準備してきた。それに、私は思った以上に緊張し、戸惑ってしまいました。しかし、

けやきの郷のみなさんは、とても温かく迎えて下さいました。利用者の方と共に不器用な私が作ったペーパークラフトは、大したものでした。最後に歌った私たちの歌に、とても喜ぶ方、思わず涙する利用者の方もいらっしゃり、交流の意味を身をもって感じ事ができたと思います。

人生の大先輩から学んだ事は忘れず、今の高齢社会の中、少しでも高齢の方に貢献できる大人になれるよう努力します。貴重な体験と思い出、本当にありがとうございました。



みんなで合唱

～定年を迎えて～

給食センター 市来義信



私が黎明会でお世話になつて34年が過ぎようとしています。

当時は現在の大きな厨房ではなく、働いている人数も少なく、家庭的な雰囲気の中で働いておりました。食事の提供先は救護施設の黎明、あかつきと職員給食を提供しておりました。当時は食数も少なく現在の3分の1くらいであります。昔は忙しい時は栄養士も厨房に入り一緒に調理していました。今ではとても考えられない事です。

当時も行事食はあり、春は手作りのお花見弁当、冬には鍋料理、お正月には調理師が腕を奮い利用者の為に一生懸命おせちを作りました。昭和59年当時としては今迄ない最新の給食の設備（自動炊飯機や自動揚げ物機）などを購入、フロアはドライ式なので衛生区域と非衛生区域に別れ仕事がしやすかった事を覚えてます。

衛生面でも食中毒を起こさぬよう、毎年多摩小平保健所より講師を招き、食中毒発生防止に関する講習、ビデオ観賞などで、日頃か

ら手洗いやマスクの着用を実施し、清掃も職員一同の協力で毎日行い清潔保持に努めました。また、調理向上にと救護施設協議会の全国大会、関東ブロック、多摩・立川・

小平施設協会主催の調理講習及び調理実習に参加させていただきとても勉強になりました。

今年の1月にのぞみ作業所で行われた「お魚解体ショー」でマグロ・ハマチ・鯛の解体を利用者の目の前で行い、マグロ・鯛の頭を台に乗せて各テーブルを回り、見て触っていました。また目の前で握ったお寿司、細巻き、あら汁は大変美味しかったと喜ばれました。大好評のうちに利用者、ご家族の皆様との交流ができたことは私にとって今後の励みとなります。

協力して頂きましたのぞみ作業所の職員の皆様方ありがとうございました。毎年行われていたあかつき利用者と一緒に付添い旅行や親睦の交流を図る職員旅行も楽しかった思い出の一つです。

永い間お世話になり本当にありがとうございました。

平成22年度 定年退職者

平成23年3月31日、平成22年度の定年退職者として次の4名の職員が黎明会を後にしました。

皆さん黎明会の発展に精励されました。これまでのご尽力に敬意を表し、こちらにご紹介します。これからも健康に留意され素敵なお人生をお過ごし下さい。



氏名	現職種	採用日	備考
市来 義信	給食センター 調理員	昭和52年3月25日	あかつき調理員として採用。黎明寮（所属）の調理員を経て、後、あかつきに異動。給食業務に専念されました。（勤続34年）
谷口 愛子	あかつき 介護職員	平成3年4月1日	澄水園調理員として採用。後、やすらぎ指導員として勤務し、あかつきに異動。利用者サービスに専念されました。（勤続20年）
井田スエノ	宮川富美子	平成3年7月1日	澄水園調理員として採用。給食業務に専念されました。（勤続19年）
給食センター 調理員	給食センター 調理員	平成3年7月1日	澄水園調理員として採用。後、あかつきに異動。給食業務に専念されました。（勤続19年）
平成3年7月1日	平成3年7月1日	（勤続19年）	

お知らせ

◆平成22年度

第2回理事会・評議委員会

平成22年12月17日16時からアルカディア市ヶ谷において、平成22年度第3回理事会・評議委員会を開催しました。

会は理事長の挨拶で始まり、規程の改正等について審議し、全会一致で承認されました。(岩本)

◆法人本部移転のお知らせ

やすらぎの園改築工事に伴い当会法人本部事務所を左記のとおり移転しました。

【移転先】小平市中島町28-10
I&Mビル2階
(東大和市駅から徒歩10分)



人力車で全員集合

◆救護部会合同室内ゲーム大会

(あかつき)

新年を迎える、今年度最後の合同行事である、室内ゲーム大会が1月27日、多摩障害者スポーツセンターで行われました。

今回も、百人一首のボーナスセンターで行いました。今回の開催となる、歴史ある大会も、年々、姿を変え、今年は、百人一首のボーナスセンターを取り入れました。

技術を必要としないこのゲームに、会場からは利用者様の笑顔と、

施設リポート

◆日帰り旅行(黎明寮)

去る1月20日、浅草へ日帰り旅行に出かけ、人力車を体験しました。ところで皆さんは人力車に乗ったことがありますか。乗ってみると意外と座る位置が高く、街を見下ろす感じです。自転車と同じ軽車両なので車に混ざって走るので

すが、周りの観光客からはカメラを向けられ、ちょっとした有名人になつた気分・・・優越感に浸れます。

今回は7台連なる大行列。普段は車いすで生活している利用者さんも、「気分爽快だつたわ」とおっしゃっておりました。皆さんもぜひ一度お試しあれ。(浦野)

（浦野）

歓喜の声が絶えませんでした。勝敗を決めるゲーム大会ではあります。が、勝ち負けよりも、共に過ごす時間を楽しむ事ができ、利用者満足が得られた、大成功の大会でした。(渡部)

◆節分(やすらぎの園)

(佐藤)

2月3日午後、歌遊びボランティアさんと、みなさん楽しく歌を歌っていると、曲が代わり、赤鬼さん青鬼さんが、金棒もつて登場。

司会者の掛け声と共に、みんなは内！」と、豆を元気に投げ、鬼はあたふたと退散・・・みんな節分を楽しまれました。(古藤)

◆節分(やすらぎの園サービスセンター、いきいきセンターセンター)

(佐藤)

2月3日午後いきなり鬼さん達乱入！事前に節分で鬼が来る事は、

皆さんにお伝えしていましたが、時間は内緒でした。皆さんに直ぐお豆を持って、鬼退治をして頂きましたが、皆さん心優しく、「強く投げて！」と声をお掛けしても、そっと投げる皆さんでした。(横堀)

（横堀）

去年1月29日(土)の午後、作業所でビデオ観賞会が行われました。

開催される1ヶ月前に、利用者の皆様から、ビデオ観賞会の実行委員を募集し、何を観たいか、当日はどのような形で観賞するのか、

◆ビデオ観賞会(のぞみ)

(植手)

早いもので4月から

新年度の始まりです。今回から編集後記をスタートします。皆様どうぞ宜しくお願ひします。

編集後記

早いもので4月から新年度の始まりです。今回から編集後記をスタートします。皆様どうぞ宜しくお願ひします。

(N・O)

旅行のビデオに決定しました。当日、プロジェクターで大型スクリーンに映し、お茶をしながら観賞をしました。旅行の映像を見て、笑ったり、思い出に浸つたりと皆さん楽しんでいました。

◆新年祝賀会・初詣(ゆとりあ)

(佐藤)

毎年恒例となっております元日

(熱海来宮神社)、1月6日(三島大社)と初詣に入居メンバーの皆様と参拝して参りました。

当日は年頭にふさわしく天候に恵まれ、清々しい気持ちで御参りすることができました。

来宮神社は熱海市内にあり、来宮大明神と称し、熱海郷の地主の神であつて来宮の地に鎮座し、来福・縁結びの神として古くから信仰されています。

国の天然記念物に指定されています大楠は、健康長寿・心願成就としてパワースポットとして有名です。

今年も皆様が楽しく参加されます行事を考えていきたいと思いま

す。(植手)

